滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

祈りの近江巡礼

至宝展

重要文化財　如意輪観音像　一幅　鎌倉時代　法厳寺

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

近江巡礼

祈りの至宝展

近江は、古代から文化・経済の先進地であり、世界有数の古代湖である琵琶湖のほとりに聳える比叡山からは、日本仏教の主要な宗派の開祖たちが巣立ち、まさに我が国の仏教文化の中心でありました。

連綿と続く豊かな歴史・文化を有する滋賀県は、国宝・重要文化財の指定件数において全国第四位であります。

今回の展覧会では、滋賀県の公立博物館の先駆けとして活動してきた滋賀県立琵琶湖文化館の収蔵品を、二部構成で一挙にご紹介します。

第一部：近江の仏教美術、神道美術

琵琶湖文化館の寄託品を中心に優品五七件（九四点）を紹介します。

人々は古来、神や仏に祈りを捧げてきました。

滋賀には人々が祈りを捧げる場となる社寺が四六〇〇余り存在しており、県南部に位置する比叡山はわが国を代表する仏教・神道の拠点として一大文化圏を築いています。

このため県内には仏教・神道美術が時代や宗派を問わず数多く伝来しており、これらは重層的に、かつ地域の暮らしに寄り添いながら存在しています。

まさに、人々の祈りとともに現代に守り伝えられてきたものだといえます。

滋賀県立琵琶湖文化館とは

滋賀県立琵琶湖文化館は昭和三六年（一九六一）に開館して以来、仏教美術を中心として文化財の展示公開はもとより、何よりも地域の文化財の保護に寄与し、大きな役割を果たしてきました。半世紀以上にわたる活動で培ってきた信頼が、国宝・重要文化財を含む多数の文化財をお預かりする状況につながり、全国有数の質の高い収蔵品を誇る博物館となっています。

近江の「神と仏の美」

近江は都が一時営まれたことがあり、また長きにわたり人的・物資的にも都を間近で支えてきた歴史的に重要な土地だといえます。交通の要衝であったことから、最新のさまざまな情報や文化が流入しやすい環境にありました。

仏教は大陸の先進文化としてわが国で受容、発展しましたが、とくに平安時代に最澄によって開かれた比叡山は日本仏教の中心地となっており、ここから円珍、法然、親鸞、日蓮など主要な宗派の開祖たちが巣立っています。また、比叡山の麓に鎮座する日吉大社は、神仏習合思想に基づく日吉山王信仰の拠点として知られています。

第二部：近世絵画

琵琶湖文化館の活動のもう一つの柱となるコレクションです。

滋賀は古来、美しい景勝地として知られており、たびたび歴史の表舞台に登場することから、多くの画家たちがこの地を訪れて作品を描き残してきました。

また歴史上に名を残した近江出身の画家たちも少なくありません。

今回は館蔵品を中心とし、滋賀を舞台とする作品、滋賀ゆかりの作家の作品など二四件（三二点）を紹介します。

これら選りすぐりの琵琶湖文化館収蔵品を通して、滋賀の魅力ある「神と仏の美」、そして琵琶湖を望む豊かで風光明媚な滋賀の地に対する理解が深まる機会となれば幸いです。

近江の至宝をお見逃しなくご覧ください。

国宝二件
重要文化財二八件
県指定文化財一八件
市指定文化財二件
を含む計八一件を
一挙公開！

このため、近江では神と仏に関する多くの優れた文化財が生み出されてきました。そして、天台宗、浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、臨済宗、黄檗宗などの新たな潮流があらわれた時、近江の人々はこれを積極的に受容し、古いものを淘汰することなく、うまく融合させて現代に伝えてきたのです。

このことが、滋賀が京都や奈良に次いでわが国でも有数の文化財保有県となっている所以であり、滋賀にはこれを裏付けるように各時代、各宗派の文化財が質・量ともに豊かに残っているのです。なお、京都や奈良では大寺院を中心に国宝や重要文化財が伝来していますが、滋賀県では県内全域に広く分布しているという独自の様相を呈しています。

このような近江の神と仏に関する文化財は、平成二二年六～九月に九州国立博物館でトピック展示「湖の国の名宝展―最澄がつないだ近江と太宰府―」（九州国立博物館開館五周年・滋賀県立琵琶湖文化館開館五十周年記念）として、公開されました。また、平成二三年一二月～平成二四年二月には文化庁主催の海外展として大韓民国・国立中央博物館において特別展「日本　仏教美術―琵琶湖周辺の仏教信仰―」、平成二四年九～一二月には特別展「琵琶湖をめぐる　近江路の神と仏　名宝展」（三井記念美術館）として公開されており、今まさに国内外で広く注目を集めています。

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

近江巡礼

祈りの至宝展

第一部 近江の仏教美術 神道美術

1 国宝 透彫華籠（すかしぼりけ）

二枚　平安～鎌倉時代　神照寺

仏教の法会等で散布する花びらを入れる器で、手に持って使用する。一枚の銅板をのばして透かし彫りであらわされた宝相華唐草文は伸びやかであり、蔓や葉、花は立体感をみせる。全体に鍍金を、そして花弁などの部分には鍍銀が施されており、金銀の対比が美しいわが国の金工品を代表する優品。

4 重要文化財 華鬘（けまん）

一枚　鎌倉時代　金剛輪寺

堂内の荘厳のために長押などに吊り下げて用いる荘厳具。インドで貴人に対して花輪（レイ）を捧げる習慣が、仏教に取り入れられたもの。銅板を透かし彫りにして蓮華唐草文をあらわしたもので、優雅な唐草と大ぶりの蓮華が華やかであり、また葉や花などには細かくタガネを打ち込むといった繊細さも持ち合わせた作品。

5 重要文化財 帝釈天立像

一軀　平安時代　正法寺

古くはインドのヴェーダ神話に登場する雷雨神であり、梵天とともに早くから仏教に取り入れられた。胸元のフリルは瀟洒であり、裙に見られる衣文もよどみない美しさを見せるなど、全体的に流麗な印象となる帝釈天であるが、張った小鼻やへの字に結んだ口元などの顔の表情は、仏法の守護神として意志の強さを存分に感じさせる。

6 重要文化財 紺紙金銀交書（こうしょ）法華経（巻首）

二巻　平安時代　延暦寺

藍で染められた美しい紺色の紙を用いた写経。文字は一行ごとに金泥と銀泥で交互に書かれており、行を区切る界線は銀泥で引くなど、贅沢ながら厳かな印象となる作品である。平安時代に末法思想や浄土思想などが広がりをみせる中で、『法華経』の写経は貴族らの間で流行したが、次第に素材や加工方法に工夫を凝らした『法華経』が登場するようになる。

7 重要文化財 空也上人立像

一軀　鎌倉時代　荘厳寺

諸国を遍歴した念仏上人。鹿杖をついた旅僧姿で胸に懸けた鉦鼓を打ち鳴らしながら、念仏を唱える様があらわされる。痩せこけた頬、あばら骨の見える胸元が写実的。開けた口からは針金が見え、空也が「南無阿弥陀仏」と唱えるとその一音一音が六躯の阿弥陀如来像となって口から吐き出されたという伝説を表現したものかと思われる。

3 重要文化財 薬師如来立像

一軀　奈良時代　聖衆来迎寺

琵琶湖の湖中から出現したという伝説をもつ薬師如来。右手で衣の端をぎゅっと握るという姿は大変珍しいものである。同じ表現がみられるものとして岐阜・横蔵寺の銅造薬師如来立像があるが、これには渡唐した最澄が師である道邃から授かったものであると刻まれており、本像の伝来を考える上で興味深い。

2 重要文化財 地蔵菩薩立像

一軀　平安時代　東南寺

涼やかな目元で鼻筋が通った凛々しい表情の地蔵菩薩。グッと一点を凝視する眼差しは、静かではあるものの、溢れんばかりの力がみなぎる。一般的に浄土信仰の影響を受けた地蔵菩薩は、錫杖を持って六道を巡りながら衆生を救済する比丘の姿であらわされるが、本像は錫杖を持たない古い形式の姿となる。

第二部 近世絵画

9 重要文化財 日吉山王神像

一幅　鎌倉時代　百済寺

比叡山の麓にある日吉大社に鎮座する二十一の神々・山王権現を描いたもの。山王権現のご神体である八王子山を背景に、上七社の本地仏を中心に神々を、また所々に山王権現の使いである神猿を描く。天台宗では山王権現を守護神として信仰したため数多くの曼荼羅が伝来するが、本品はとくに優品として知られる。

8 国宝 六道絵 人道生老病死四苦相図

一幅　鎌倉時代　聖衆来迎寺

人が生まれてから死ぬまでに必ず経験する四つの苦しみである「生老病死」について描いた作品。こどもの誕生を部屋の外で待つ男性、鏡に映った老いた自分を嘆く女性、病に伏せる女性、そして山道を行く死者を弔う葬列などが見られる。逃れられない苦しみが静かな場面として描かれており、それがかえって人の心に恐怖を与える。

10 金剛盤・五鈷鈴

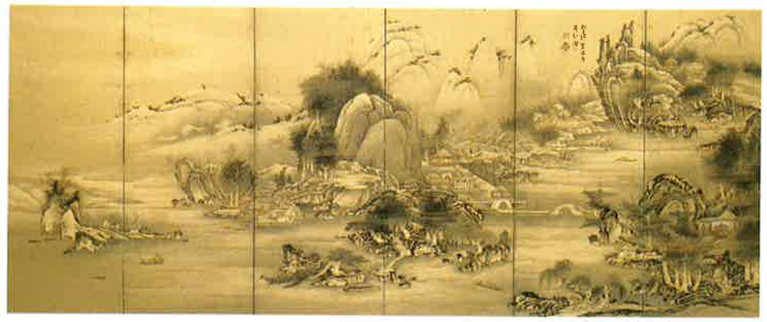
一面一口　室町時代　園城寺

金剛盤の上に五鈷鈴をのせたもので、密教修法を行う際に壇上におかれる。五鈷鈴は諸尊を驚覚、歓喜させるために振り鳴らす法具であり、五鈷杵形の柄であることからこの名がある。いずれも珍しい白銅製となる。なお、金剛盤には永禄元年（一五五八）の銘があり、制作年代の明らかな基準作として貴重である。

11 鳥禽図

一幅　江戸時代　琵琶湖文化館

「色彩の魔術師」と呼ばれる伊藤若冲の作品。松の枝で休む一羽の錦鶏の姿を描いたもの。近年、若冲の作品としてあらためて紹介されるようになってきたもので、代表作『動植綵絵』のうちの「雪中錦鶏図」との比較で語られることが多い。



12 重要文化財 楼閣山水図　曾我蕭白筆

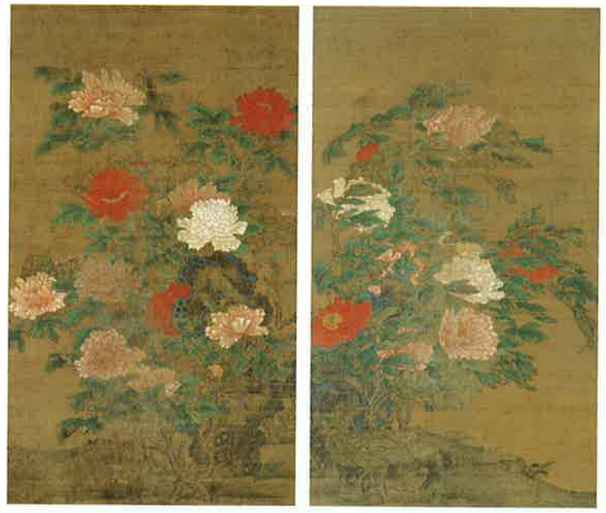
六曲一双　江戸時代　近江神宮

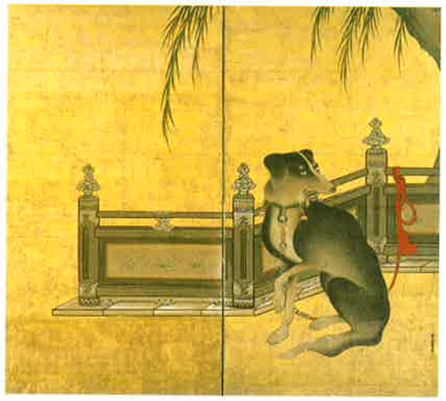
「奇想の画家」と呼ばれる曾我蕭白の代表作の一つとされる屏風。梅花の咲きほこる渓谷に人々が行き交う姿をあらわした春の景色を右隻に、赤く染まった紅葉の見える渓谷に月が静かに輝く秋の景色を左隻に描く。本来の名称である「楼閣山水図」よりも「月夜山水図」の名で世に知られ、多くのファンを魅了する作品である。

13 牡丹図

二幅対　中国・明時代　琵琶湖文化館

「百花の王」である牡丹を色鮮やかに描いた対幅。一幅には大きく花弁を広げた赤や白などの牡丹を描いた「静」の場面、もう一幅には強い風にあおられて弧を描いた枝、風に流された牡丹を描いた「動」の場面となるなど、両幅が対称的な作品となっている。





14 洋犬図　波多野等有筆

二曲一双　江戸時代　琵琶湖文化館

柳の下の欄干に赤い紐で繋がれた洋犬。すらりと伸びた体躯で左前足をあげて座り、振り返ってジッと気配をうかがっている。耳は江戸時代前期に流行した「たれ耳」。首輪は縁取りをして鈴を二個取り付けたデザイン性の高いもので、大きさの異なる金具を連ねた鎖と大きな房のある赤い紐も洒落た作りとなっている。

15 十二月図　月岡雪鼎筆

六曲一双　江戸時代　琵琶湖文化館

季節とともに移り変わる行事や風物を、各月ごとに一年にわたり描いたもの。五月には病気にならないようにとの願いを込めて菖蒲の葉を用いて薬玉を作り、軒に吊り下げる。作者は近江出身の画家月岡雪鼎。雪鼎は、曾我蕭白と並び称された高田敬輔に師事し、王朝文化を題材とする古典人物画、そして美人風俗画を得意とした。

滋賀県指定文化財　叡山図（部分）1幅　曾我蕭白筆　江戸時代　琵琶湖文化館

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

近江巡礼

祈りの至宝展

静岡展

会期：2013年1月2日(水)―2月11日(月・祝)
会場：静岡市美術館
主催：静岡市、静岡市美術館　指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、
　　滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、毎日新聞社
協賛：野崎印刷紙業株式会社
お問合わせ：静岡市美術館
　〒420-0852　静岡市葵区紺屋町17-1　葵タワー3階
　TEL054-273-1515　FAX054-273-1518

仙台展

会期：2013年7月12日(金)―8月25日(日)
会場：仙台市博物館
主催：仙台市博物館、TBC東北放送、河北新報社、滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館
企画協力：毎日新聞社
協賛：野崎印刷紙業株式会社
お問合わせ：仙台市博物館
　〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
　TEL022-225-3074　FAX022-225-2558

出雲展

会期：2014年3月28日(金)―5月11日(日)
会場：島根県立古代出雲歴史博物館
主催：島根県立古代出雲歴史博物館、滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、毎日新聞社
協賛：野崎印刷紙業株式会社
お問合わせ：島根県立古代出雲歴史博物館
　〒699-0701　島根県出雲市大社町杵築東99番地4
　TEL0853-53-8600　FAX0853-53-5350

毎日新聞大阪本社総合事業局
TEL06-6346-8391(平日　午前10時～午後6時)